

二〇一八年 函館経済の 展望と課題



日本銀行函館支店長

井上 広隆氏

このほど、法人会会員の企業オーナーになんらかの参考になればということ、日本銀行函館支店長井上広隆氏より『二〇一八年函館経済の展望と課題』という新年の所感がよせられました。

函館法人会の皆様、明けましておめでとうございます。平素より日本銀行函館支店の業務や産業調査に対し格別のご理解とご協力を賜り、改めて御礼申し上げます。

さて、本稿では、昨年の函館経済を振り返り、本年の展望や課題について私なりの個人的な考え方をお示ししたいと思います。

まず、函館の話に入る前に、日本全体の景気情勢を整理します。

日本の景気は緩やかに拡大しています。実質経済成長率は七・四半期連続でプラスとなるなど、息の長い成長が続いています。その背景には、

海外からの需要（外需）と国内の需要（内需）がバランスをとれた形で拡大していることが挙げられます。

外需については、米国・欧州・新興国の全てにおいて経済状況が改善しています。世界全体の貿易量も回復しており、自動車関連や情報関連を中心として、日本から各国への輸出も増加傾向にあります。

内需をみると、企業の売上高利益率が過去最高水準を更新する中で、設備投資が緩やかな増加基調にあります。また、家計部門をみても、一般的な雇用・所得環境の改善に加え、耐久財の買い替え需要による下支えもあって、底堅さを増しています。さらには、公共投資も増加しています。

このように、日本の景気の拡大は特定の部門に依存せず、内外需の幅広い部門に支えられています。それが故に、今後についても持続的に拡大を続ける可能性が高いとみています。こうした状況の下で、日本銀行の短観における業況判断も業種・規模を問わず改善しています。これは、大企業・製造業中心の改善であった二〇〇〇年代半ばの景気回復局面と

さらに詳しくはWEBへ



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

イータックス

検索

は様変わりです。

こうした景気回復の裾野の広がりを受け、労働需給は一段と引き締まっています。日本全体でみた有効求人倍率は一・五倍を超え、失業率も二%台後半にまで低下するなど、一九八〇年代後半のバブル景気以来の引き締めりとなっています。

しかし、労働需給の引き締めりにもかかわらず、消費者物価の前年比はプラス〇%台後半にとどまっています。物価が上がらない背景には、携帯電話料金の値下げ（格安携帯電話のシェア拡大）といった一時的要因もありますが、幅広い企業において、①人件費との兼ね合いで採算の合わないサービスを削減するといったビジネス・プロセスの見直しや、②ITなどを利用した省力化・効率化投資の拡大により、賃金の上昇圧力を吸収しようとしていることが影響しています。こうした取り組みは、個々の企業の生産性を高める合理的な経営判断によるものですが、物価の面からみれば、少なくとも短期的には、物価上昇圧力を弱める方向で作用しています。もともと、ビジネス・プロセスの

見直しや省力化投資は未来永劫に同じペースで続くものではないため、物価はいずれ上がり始めると考えられます。日本銀行では、二〇一九年にかけて緩やかな経済成長が続く中で、消費者物価の上昇率は目標であるプラス二%に近づいていくものとみています。

次に、函館経済の状況です。函館の景気は、新幹線開業直後の二〇一六年夏にピークを付けた後、緩やかに下降基調をたどっています。現在では、日本の中で、また北海道の中で相対的に弱い状況にあります。日本銀行函館支店では、昨年一月に「道南地方の景気は、このところ弱含んでいる」と、基調判断を引き下げましたが、昨年一二月の短観の結果でも、函館支店管下（渡島、檜山）の業況判断は全国三二支店のうち最も低い水準となっています。このような景気判断の引き下げは、主に水産加工業における生産水準の低下を踏まえたものです。水産加工業の売上高は、国内産イカの不漁を背景とした原材料の不足・仕入価格の上昇などを受けて二〇一六年四〜六月期に前年比マイナスに転じ

た後、足もとは概ね前年比マイナス一〇%程度の減少となっています。水産加工業の生産減少は、当地において卸小売・運輸・機械製造などさまざまな業種に波及ブローのように効いてきています。

もう一つ気になるのが観光です。昨年夏場のオンシーズンについては、北海道新幹線の開業効果には一服感がみられるものの、市内ホテルの宿泊客数や主要観光施設の利用客数は高水準で推移しました。要すれば、新幹線開業で沸いた一昨年の数字は下回りましたが、新幹線開業前と比べるとはつきりと増加していました。もともと、秋が深まり観光のオフシーズンに入ってから新幹線の開業効果も一段と弱まっているとの話も聞かれました。

そうした現状も踏まえながら本年を展望すると、「海外経済の成長を函館経済の成長に取り込んでいく」ことが最大の課題であるように思います。

まず、観光関連ではインバウンド観光の一段の促進です。海外のLCC（格安航空会社）やクルーズ船の誘致は重要なカギであり、この点、

タイからのLCC就航実現やクルーズ船向けの若松埠頭の整備は大きなプラス効果を持つと思います。国内からの観光客については、新幹線の「物珍しさ」による集客効果は薄らいでいくことが避けられない下で、既存の観光資源に磨きをかけ、「フェスティバルタウン」を実現していくことが重要と考えられます。

道南全体に目を転じれば、函館駅や函館空港のみならず、新函館北斗駅や木古内駅からの二次交通を一段と充実させることも重要です。道南には、松前の桜、江差追分、大沼や駒ヶ岳など全国区の観光資源が存在し、また、移動手段としても道南いさりび鉄道からの「横夜景」といった味わい深いコンテンツがあります。

今年には「北海道一五〇年」であるとともに、道南においては「函館戦争一五〇年」でもあります。そういった歴史上のイベントをうまく集客につなげるとともに、道南全体として観光客の回遊性を高め、それを通じて観光客一人当たりの滞在日数や消費額を増やしていければと思います。



次に、水産加工関連では、函館近海でのイカ漁の行方を含め、引き続き原材料の安定調達のポイントとなります。また、販売する製品のラインナップについても、海外への輸出をより意識した構成とすることも考えられます。

漁業については、どうしても豊漁と不漁の当たり外れがあり、水揚量の変動が大きくなりがちです。この点、水揚量を平準化すべく、カキ、ウニ、コンブなどの養殖(栽培型漁業)に取り組むことも一つのアプローチです。さらに、ビッグデータやAI(人工知能)を活用して効率的な出漁を行うことも今後の課題です。ビッグデータの水産業への活用については、公立はこだて未来大学などで研究が進められており、その成果が花開くことに期待しています。

さらには、少し長い目でみると、観光や水産加工に加え、輸出型の「モノづくり」を強化することで函館全体として産業構造をよりバランスの良いものにしていくことも大切です。世界経済の成長を当地経済の成長に取り込んでいくという点で、「モノ

づくり」産業の振興は当地発展の重要な一ピースであり、それがひいては人口減少に歯止めをかける一助になると考えています。

以上、いろいろ申し述べてまいりましたが、いずれの業種であれ、「函館」のブランド価値を如何にうまくマネタイズ(収益化)するか、私自身も知恵を絞っていききたいと思えます。

結びといたしまして、本年が皆様にとつて良い年となることを祈念しております。今後とも日本銀行函館支店をよろしくお願い申し上げます。



設立60周年記念式典・祝賀会 並びに新年交礼会のご案内

法人会では、今年尚、一層の充実を期待いたしまして、来る1月16日(火)に下記の通り「設立60周年記念式典・祝賀会並びに新年交礼会」を開催いたします。つきましては、時節柄何かとお忙しいこととは存じます、お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

- 日 時 平成29年1月23日(月)午後6時～
- 場 所 函館国際ホテル
- 会 費 6,000円
- お申込方法 法人会事務局まで、
お電話、FAXにてお申込み下さい。



(公社)函館法人会 TEL 0138-54-9369 FAX 0138-54-9368

※ 会費につきましては、当日会場にてお支払願います。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索